

ふるさとの山

小学6年生の音楽の教科書に、歌唱教材として文部省唱歌の「ふるさと」が掲載されている。有名な曲である。1番の歌詞は次のとおりである。

ふるさと			
うさぎ	追いし	かの山	小ぶな釣りし
かの川	夢は今も	めぐりて	忘れがたき
ふるさと			

現在、大阪・関西万博が開催されているが、前回の大阪万博が開催された昭和45年の前年、昭和44年4月に、私は、高瀬町立勝間小学校に入学した。歩いて登校している時、遠くには、「爺神山」が見えており、小学校低学年の春の遠足は、「爺神山」山麓の桜がきれいな爺神公園だったと記憶している。あれから半世紀以上が経過し、現在、「爺神山」を正面に見ながら、自動車で通勤している。まさしく私のふるさとの山の一つが「爺神山」であることに間違いない。ほかにも、高瀬町にある「福井山」や「八ツ山」が私にとってふるさとの山である。

さて、理科の教員の中で、山について有名な話がある。子どもたちに「山の絵を描きましょう」と言うと、香川県の子どもは、**A**のようなおむすび形の山を描き、長野県の子どもは、**B**のような連なった山々を描くという話である。



A : 爺神山（三豊市高瀬町比地で撮影）



B : 讃岐山脈（三豊市財田町財田中で撮影）

この話は、なるほどと思うかもしれない。しかし、香川県に住む子どもが全員、**A**のような山を見て育ったわけではない。**B**のような山を見て生まれ育った子どもが、山と言われれば**A**のようなおむすび形の山を描いてしまうことが少なくないのである。これは「経験」より「知識」が優先されているのであろうか。長年、理科の教員として勤務した私にとって、少し残念で複雑な気持ちになる。

将来、三豊市で生活する人もいれば、三豊市以外で生活する人もいるだろう。将来どこで住んでも、いくつものおむすび形の山と、連なった山々、そして川が流れるふるさと三豊市の風景は忘れないでほしい。たとえ、うさぎを追ったり、小ぶなを釣ったりした経験はなくても。